

京都市子ども安全ネットワークニュース

vol.4 平成17年3月 発行：京都市子ども安全会議事務局

(教育委員会体育健康教育室 TEL.213-5472)

犯罪を生まない・許さない社会の実現を!!

～ 第4回 京都市子ども安全会議 ～

3月9日、第4回会議が開催され、学校における安全対策について、事務局から、平成13年度以降のハード面、ソフト面について京都市の取組報告がなされたあと、意見交換が行われ、学校・家庭・地域が今までどのような取組を行ってきたか、今後どのような取組が必要かについて、各委員それぞれの立場から、説明及び意見が出されました。

その中でも、「自分の命は自分で守る」という教育を子どもたちに行うことが必要であり、そして、長期的な観点から、犯罪を生まない社会を実現しなければならず、そのためには、犯罪や暴力を許さない地域社会の構築にむけて、学校・家庭・地域・関係機関等が連携して積極的に取り組んでいかなければならないということについて確認しました。このほか、会議で出された主な意見は、次のとおりです。

- ◎ 近年の事件を踏まえ、学校においても、各校で様々な工夫を凝らした取組が行われている。そして、安全対策について、日常的に各支部間・学校間で情報交換を行い、地域から信頼される学校づくりに取り組んでいる。
- ◎ 安全にはコストがかかるが、コストをかければ安全というものではない。学校の安全確保については、①自分の命は自分で守る力を子どもたちに身につけさせること、②犯罪・暴力を許さないという意思表示を行うこと、③校内における危機意識を常に持つこと、④学校・教育委員会が緊密に連携すること、などが必要である。
- ◎ 学校、PTA、市民、行政のそれぞれの取組がだんだんとうまくかみ合いだした。単に防犯対策のみならず、より根本的な課題である犯罪を生まない、犯罪を許さない社会づくり・地域づくりを、制度面も含めて行っていく必要がある。
- ◎ 社会福祉協議会等でも、子どもたちの安全について、大変関心が高く、取組も行われている。地域団体の力を借りながら、学校・家庭が積極的に取り組んでいく必要がある。
- ◎ 警察は、子どもの安全に重点を置いてきており、パトカー等の巡回も増えてきている。警察との連携、協力は、地域からの働きかけも必要である。
- ◎ 総合養護学校では、交流会などを開いているが、通学区域が広い分、地域の取組を行うのもなかなか難しいのが現状である。各学校や各PTAだけではなく、全市的な取組が必要である。

「子どもの安全確保 学校・園防犯実践事例集Ⅱ」を作成

近年、学校内や通学路等における事件・事故が大きな問題となる中、昨年度に引き続き、校内や登下校時における子どもを守るための各校・園や地域の創意工夫あふれる取組を集約した「子どもの安全確保 学校・園防犯実践事例集Ⅱ」を作成し、3月下旬に各校・園やPTA、関係団体等に配布します。

本事例集を参考に、学校・園、PTA、各種団体をはじめとする関係者の皆様が、子どもと学校・園の安心・安全を守るために何ができるか知恵を出し合っていただき、地域ぐるみで子どもを守る取組を今後一層推進していただければと考えております。

子どもの安全確保 学校・園防犯実践事例集Ⅱ

こども
あんしん・あんぜん
パトロール中

平成17年3月

京都市教育委員会
京都市子ども安全会議